

成人の方で接種を検討すべきワクチン



インフルエンザワクチン

- ・ 65歳以上の方、60-64歳で心臓・腎臓・呼吸器障害のある方は**定期接種の対象**（自治体から一部費用補助があります）

新型コロナウイルスワクチン

- ・ 65歳以上の方、60-64歳で心臓・腎臓・呼吸器の障害があり身の回りの生活が極度に制限される方は**定期接種の対象**
- ・ インフルエンザワクチンとの同時接種も可能

RSウイルスワクチン（アレックスビー）

- ・ 50歳以上で、慢性の呼吸器疾患（喘息、COPD、気管支拡張症など）・心疾患（心不全など）をお持ちの方はRSウイルス感染による重症化が危惧される
- ・ 小さな子供さんと同居している方はRSウイルスをもらいやすい

帯状疱疹ワクチン（シングリックス）

- ・ 50歳以上で基礎疾患のある方に推奨
- ・ 65歳の方から5歳年齢ごとの方は**定期接種の対象**
- ・ 高齢になるにつれ帯状疱疹にかかりやすくなり、80歳までに3人に1人がかかるといわれている
- ・ ワクチン接種は通常2-6カ月空けて2回行う

肺炎球菌ワクチンについて

島根大学医学部附属病院
呼吸器・化学療法内科



肺炎を予防して 健康寿命を延ばしましょう

肺炎は日本人の死因の上位にあります

2021年の死亡順位		
死因	順位	死亡数
悪性新生物	1	381,497
心疾患	2	214,623
老衰	3	152,024
脳血管疾患	4	104,588
肺炎	5	73,190
誤嚥性肺炎	6	49,489

肺炎の起因菌は
肺炎球菌が
トップです

こんな方は肺炎に注意が必要です

- ①65歳以上の方
- ②施設入所中の方
- ③65歳未満で以下のような基礎疾患を持つ方
 - ・慢性呼吸器疾患（COPDなど）
 - ・心臓、肝臓、腎臓の慢性疾患
 - ・糖尿病など

インフルエンザやコロナ感染後に続発して肺炎球菌肺炎になりやすいことも分かっています

肺炎球菌ワクチンは肺炎球菌による感染症を予防し重症化を防ぎます



- ◆ 日本でも欧米でも、高齢の方への肺炎球菌ワクチン接種はガイドラインで推奨されています
 - ※全ての肺炎を予防できるわけではありません
- ◆ 副反応として注射部位の疼痛、紅斑、硬結などが見られることがあります

他のワクチンとの接種間隔についてはかかりつけ医と相談してください

肺炎球菌ワクチンは2種類あります

PCV21（キャップボックス®）
PCV20（プレベナー20®）
PCV15（バクニューバンス®）

PPSV23
（ニューモボックス®）

- ・自己負担での接種となる
- ・2022-2024年における血清型のカバー率は
キャップボックス（78%）、プレベナー20（50%）、バクニューバンス（35%）

- ・65歳の方は公費助成により初回接種費用が安くなる
- ・5年で効果は消失する

肺炎球菌ワクチンの接種スケジュール

「65歳以上の成人に対する肺炎球菌ワクチン接種の考え方（2025年9月）参照」

パターン1
65歳で市町村から
接種費用助成の
お知らせが届いた方

ニューモボックス
（公費助成あり）

ニューモボックス接種から1年以上空けて

プレベナー20 又は キャップボックス

パターン2
66歳以上で
過去にニューモボックスを
接種したことがある方

パターン3
66歳以上で
過去にニューモボックスを
接種したことがない方

プレベナー20 又は
キャップボックス
（又はバクニューバンス）

バクニューバンス接種者のみ
1年以上空けて
ニューモボックス接種

あなたはパターン（ ）です。

- ☐（ ）を接種しましょう
- ☐1年空けて（ ）を接種しましょう

過去にプレベナー13を接種した方
→1年以上空けてプレベナー20を接種できます
過去にプレベナー13、バクニューバンス、プレベナー20を接種した方
→1年以上空けてキャップボックスを接種できます